

学校法人 国際ことば学院・国際ことば学院外国語専門学校の学校関係者評価委員会は、2024 年度の自己点検・自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いました。

学校関係者評価委員（順不同・敬称略）

栗田 裕之	静岡市議会議員
浜本 百合子	医療法人社団 浜本整形外科医院 理事・事務長
田村 敏広	静岡県立大学 准教授
アドヒカリ ラビンドラ	レストラン経営
中村 直保	静岡市自治会 連合会長
池田 早紀	在校生保護者

2025 年度 第一回 学校関係者評価委員会

日 時：2025 年 6 月 25 日（水）
場 所：国際ことば学院外国語専門学校
出席委員：浜本百合子、田村敏広、アドヒカリ ラビンドラ、中村直保、池田早紀

議題等

1. 2025 年度 授業開始時の状況について
2. 2025 年度の学生募集・就職活動の状況について
3. 2025 年度 行事・学校活動について
4. 2024 年度 自己点検・自己評価について
5. 2025 年度 重点目標について
6. 質疑応答

2024 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

項目	課題に対する学校の取り組み状況	評価
1. 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像 □2023 年度のコース変更に伴い、教育理念と理念に基づく育成人材像の再定義を学校関係者評価委員会の意見等を取り入れながら行い、学校案内への明記など文書化を行っている。その際、多言語、ビジネススキルと国際コミュニケーション力の習得を特性として定義した。 □理念、育成人材像の実現のためにカリキュラム	□留学生を多く受け入れ、日本社会に送り出している責任は重大である。留学から就職、そして定住へと結びつくよう、留学生に対する教育と同時に日本人に対する教育にも力を入れていってほしい。 また、交流の場をもっと設けていってほしい。

	編成会議を行い、具体的な目標・計画・方法の策定を行っている。 教育の特色 □教員については関連業界経験者（実務経験のある教員）の採用を行っている。 □関連業界関係者に具体的なアドバイスや意見を常に聞きながら、人材ニーズの最適化に努めている。	
2. 学校運営	運営方針 □教育理念、育成人材像について社会のニーズにあわせて改定した。今後は、その周知と共に浸透度の確認手法を確立しなければならない。 事業計画 □単年度の事業計画と予算執行状況を3ヶ月ごとに事務局に報告し、6ヶ月ごとに理事会で審議する体制を作っている。 運営組織 □学校運営組織として大きな問題は生じていないが、現状に満足することなく学生満足度の向上を目指す運営形態であるか常に確認し最適化を図っていく。 教職員の評価・育成 □学期ごとに学習者アンケートによる授業評価を行い、教員に結果をフィードバックして教育の質の向上に努めている。 人事・給与制度 □採用基準・採用手続きについては適切に行われている。2020年度より、人事考課制度の本格的な運用が始まった。 情報システム □情報のシステム化により、業務効率アップを目指している。	□学校全体の意思疎通をしっかりとをはかることにより結束力を高めてほしい。 □人事考課制度の導入により、学校の質、教育の質の向上につながるように整備して欲しい。

3. 教育活動	目標の設定 ☐ 学生の資質向上に伴いクラスや担当の枠を超え、資格取得に向けての支援指導をさらに強化する。 教育方法・評価等 ☐ 評価アンケートの結果を授業改善に役立てられるよう教員からのフィードバックを行い、さらに教科内で情報共有のためのミーティングを実施している。 成績評価・単位認定等 ☐ 成績評価について、客観性・統一性を高めるため、授業シラバスの統合に合わせて、教科ごとの評価項目を明記した。 資格・免許取得の指導体制 ☐ 資格、検定合格率向上のための対策授業等を行っている。 キャリア教育等 ☐ キャリア教育により、就職活動において必要な知識が身につくよう取り組んでいる。 教員・教員組織 ☐ 教員募集・採用手続き等の規定を法人本部と連携し整備している。 ☐ 学外研修参加を奨励しているが、参加状況は十分とは言えない。	☐ 教育内容が学生のニーズ、社会のニーズに適合しているかどうか、常に見直してほしい。
4. 学修成果・教育成果	学修成果 ☐ 成績評価基準を定め、それに基づいた評価をしている。 就職率 ☐ 学生一覧を作成して就職活動の状況を把握し、内定までをフォローしている。 三者面談（日本人）や個別面談（留学生）を通じて、就職希望者への確認を行っている。 資格・免許の取得率	☐ 社会人としての心構えや礼儀、ビジネスマナーなどの指導も望む。 また、外国人人材の受け入れには日本人側の教育も不可欠なので、そういう役割も担ってほしい。 ☐ 三者面談は将来について明確に考えるきっかけとなった。細かく指導していただき、助かっている。

	□資格取得、検定合格率向上に向けて、目標や計画を策定している。 卒業生の社会的評価 □卒業生および採用企業への連絡を通して情報収集を行っている。	
5. 学生支援	修学支援 □個票による学生情報の共有、奨学金の案内を行っている。 就職等進路 □就職担当と教務部の連携を強化し、教職員全員が協力して、進路に関する支援を行う体制を強化している。 学生相談 □留学生の生活状況を含め在籍管理などの生活指導は全校をあげて取組んでいる。 学生生活 □奨学金等の経済的支援制度は、整備されているが潤沢に予算が作れないのが現状である。国による高等教育の修学支援新制度や貸与奨学金の対応をしている。 中途退学への対応 □担任会議などで学生の状況については常に情報共有することにより中途退学低減の努力をしている。 保護者との連携 □三者面談にて、家庭状況や進路確認を行うなど、密な連携に努めている。 卒業生・社会人支援 □留学生を中心に任意の強固なネットワークを保持しており学校公式 SNS を媒介として積極的に利用してもらっている。	□企業とのミスマッチがないよう、注意が必要である。 □経済的支援だけではなく、精神的サポートやケアが重要になってきている。学生の発信する SOS を素早くキャッチし、きめ細かい対応をお願いしたい。 □様々な学生が在籍しており、それぞれに寄り添った対応を今後も継続して行ってほしい。 □SNS を利用して、卒業後の学生の情報を集めることができる。たとえ一方通行だとしても、学校からの発信は続けていくべきである。ホームカミングデーなどを設けるのもよいのではないか。
6. 教育環境	施設・設備等 □教育上の施設については設置基準を満たしている	□様々な学生が在籍しているため、ニ

	る。学生数の増加に伴い、トイレの増設を検討中。 ☐図書室は整備され、多言語の多読用の本も充実させた。更なる図書の充実を図っていく。 学外実習・インターンシップ等 ☐韓国や台湾の大学と提携し、短期研修や三年次編入などを行っている。 防災・安全管理 ☐防災体制については定期的、計画的に行われている。	ーズをしっかりと把握して対応して いてほしい。また、就職活動につな がる本があれば、役立つと思われる。 ☐留学生が多いため、避難場所の確認 をしっかりとしてほしい。自宅からの避 難場所もわかるようにしておくとい いのではないかな。
7. 学生の受 入れ募集	学生募集活動 ☐募集時期、募集活動は専修学校団体の自主規約 に即して適切に行われている。 学校案内を含め学生募集ツールは、よりわかりや すく特徴を伝えるために募集対象者に応じて複数 作成される必要性を感じている。 入学選考 ☐入学選考基準は明確化されており、公平性が保 たれるよう教務部、事務部が連携し合否判定体制 を整備し、入学選考基準、選考方法の文書化を行っ た。 学納金 ☐同種類・同規模校の水準を把握しできるだけ学 生に負担をかけない学納金の設定を行っている。	☐現在の日本社会の方向性に合致し た多文化が特徴の学校として、地域に 対して模範的存在となるよう期待し ている。 ☐日本人学生の獲得に向けて指定校 推薦等は宣伝効果がある。また、授業 見学など、日常の生活を見せてあげ るとよいのではないかな。
8. 教育の内 部質保証シ ステム	関係法令、設置基準等の遵守 ☐ハラスメントやコンプライアンスについての方 針を明らかにし、相談窓口を法人本部に設置し、教 職員や学生への周知を行った。対応マニュアルの 整備を進めていく。 個人情報保護 ☐学生の個人情報については、パスワードの設定、 SSLの設定、学内サーバへのファイヤーウォールの 設定などの対策を講じている。	

	学校評価 ☐自己評価、学校関係者評価は適切に組織化され学校運営改善に寄与している。 改革・改善 ☐自己点検・評価の結果に基づいて毎年の重点目標を定め、改善に取り組んでいる。 教育情報の公開 ☐年度を通して必要な情報は学校案内やホームページで公開している。適宜情報公開が必要なものについても公開しており、大きな問題はない。	
9. 財務	財務基盤 ☐コロナによる留学生数の減少が今年度まで続いたため、学校運営には少なからず影響があった。しかし、法人グループ内の日本語学校では、学生数の増加に伴って収入も回復し、法人全体としては安定した経営ができています。 予算・収支計画 ☐予算策定及び執行管理は適切に行われているが、予算規定の整備が遅れている。 監査 ☐学校規模から鑑みて監査は適切に実施されている。 財務情報の公開 ☐財務情報についてはホームページに公開している。	☐教育やサービスが学生に十分還元されるよう、バランスの良い分配、健全な収支をお願いしたい。
10. 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献 ☐韓国語学習希望者が多い学校特性から、韓国の教育機関との研修を中心とした相互交流活動を積極的に行っている。より社会に開かれた学校を目指すためにも、学校からの広範な情報発信が必要である。 ボランティア活動	

	☐ 学生に積極的にボランティア活動に参加するよう奨励している。	☐ 町内会など近隣の地域との日常的な協力関係を期待している。
11. 国際交流	留学生の受入れ・海外への留学 ☐ 留学生の受入れを積極的に行っている。また、海外への留学支援も行っている。	☐ 学生 1 人 1 人対して目が行き届いた学校であり、評価している。